

IG科研&グローバル関係学科研主催
— Online Book Talk 3 —

巣ごもり 読書会 Feminism 『フェミニズムとイスラーム』

今回は「フェミニズム」について考えるシリーズ第3弾、とりあえずの最終回です。

学術誌上の特集「フェミニズムとイスラーム——批評の境界を探る“Roundtable: Feminism and Islam: Exploring the Boundaries of Critique”」（『宗教とフェミニスト学 Journal of Feminist Studies in Religion』32(2), Fall 2016, pp. 111-151）を題材に、近年米国で活躍するムスリム女性研究者たちのクルアーン解釈をめぐる論争について、二人の語り手が思うところを自由に話し合います。ふるってご参加ください。

語り手 **後藤 絵美** (東京大学)

高橋 圭 (東洋大学)

後藤 絵美 (ごとう えみ)
大学でイスラームとジェンダーに関する講義を受け持つ中で、イスラーム圏の人々の経験や思想を含めた「フェミニズム」って何だろうと考えるようになる。主著『神のためにまとうヴェール——現代エジプトの女性とイスラーム』（中央公論新社、2014）。東京大学日本・アジアに関する教育研究ネットワーク特任准教授。

高橋 圭 (たかはし けい)
スーフィズム（イスラーム神秘主義）に関心を持ち、近年はアメリカをフィールドにして研究を行っている。調査を通じて、現代イスラームの理解にはジェンダーの視点が不可欠との認識を深める。論文「伝統と現実の狭間で——現代アメリカのスナ派新伝統主義とジェンダー言説」（『ジェンダー研究』21号、2019年）など。東洋大学文学部史学科助教。

2020. **10.31** ※開催日が変更になりました Sat 20:00-21:00

会場 Zoomを利用したオンライン開催

参加方法 ご参加希望の方は登録フォーム（<https://forms.gle/9nkmb8VSsJTCbRYUA>）
またはQRコードより前日までにお申し込みください。

※ZoomのURLを当日正午までにe-mailアドレスにお送りします。



◆主催
科研費基盤研究(A) イスラーム・ジェンダー学と現代的課題に関する応用的・実践的研究（代表：長沢栄治）
新学術領域研究 グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて：関係性中心の融合型人文社会科学の確立
B01班規範とアイデンティティ（代表：酒井啓子）

◆共催
東京大学 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク

◆問い合わせ先
イスラーム・ジェンダー学科研事務局 (office@islam-gender.jp)